

## 第2回中高一貫教育校設置に係る庄内地区懇談会 記録（概要）

- 1 日 時 平成31年3月18日（月）18:30～19:30
- 2 会 場 庄内総合支庁 第1号会議室及び第2号会議室
- 3 参加者 庄内地区2市3町の代表者
- ・鶴岡市 山口 朗 副市長、加藤 忍 市教育委員会教育長
  - ・酒田市 矢口明子 副市長、村上幸太郎 市教育委員会教育長
  - ・三川町 石川 稔 副町長、鈴木 孝純 町教育委員会教育長
  - ・庄内町 阿部金彦 副町長、菅原 正志 町教育委員会教育長
  - ・遊佐町 本宮茂樹 副町長、那須 栄一 町教育委員会教育長
- 事務局 廣瀬県教育委員会教育長（座長）  
須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室室長補佐  
奥山高校改革主査、丹野高校改革主査、安達高校改革主査

### 4 内 容

- (1) 県教育委員会あいさつ
- (2) 第1回懇談会での論点に対する県教育委員会としての考え方、対応案の説明
- (3) 意見交換

### 5 発言要旨

- (2) 第1回懇談会での論点に対する県教育委員会としての考え方、対応案の説明  
＜高校改革推進室長による説明＞

#### 【質疑応答】

（遊佐町教育長）

県教育委員会の見解において、本県の中高一貫教育校の設置が遅れている現状が数字として出てきているわけであるが、これからの中等教育、初等教育の在り方について、子どもたちの新しい学びの場を確保していく必要性については、本町としても異義を唱えるものではない。先般の東南置賜の再編整備計画の中で、置賜地区への中高一貫教育校の設置については、具体的な言及がなかったと思う。鶴岡市を拠点とする中高一貫教育校の必要性は時代の要請によるものあるだろうが、課題については、解決策を見いだしながらより良い学びの場を作っていくことは大事だと思う。酒田市にも将来的には中高一貫教育校の設置について、否定するものではないとのことであるようなので、鶴岡市に中高一貫教育校ができるということのみならず、大変有意義なシステムの学校だとすれば、置賜地区、山形市内も含めて、全県的な将来展望はどうなっているのか、教えていただきたい。

（高校改革推進室長）

平成21年の「山形県中高一貫教育校設置構想」において、併設型中高一貫教育校の設置等について方針を示している。その中では、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、取組み等を検証した上で、県内4地区への設置を検討するとある。この設置構想の方針にしたがって、内陸地区のモデル校として、東桜学館が平成28年に開校した。庄

内地区にも間をおかずに、モデル校を設置したいということで、この議論をしている。置賜地区においては、検討委員会や地域説明会を開催し、東南置賜地区の県立高校再編整備計画案を公表した。その検討会などにおいて、東南置賜地区にも中高一貫教育校を設置して欲しいという意見もあった。設置構想にある内陸、庄内へのモデル校の設置ができていない状況であるので、東南置賜地区の計画案には、具体的な案を示していないところであるが、今後検討すべき課題として地元自治体の要望等を踏まえながら検討していくとしている。

(酒田市副市長)

全国の中高一貫教育校の数は、国公立合わせて543校とあるが、その多くは私立の学校である。公立だけであると124校ということで、人口比で考えると山形県の1、2校というのはそんなに遅れているわけではない。鶴岡中央高校という対案を考えたときに、中学校の入学者を安定的に確保できるか、高校段階での流出も予想されるということであったが、東桜学館ではどうなのか。また、東桜学館において入学者を安定的に確保でき、高校段階での流出もないとすれば、東桜学館と鶴岡中央高校とでは何が違うのか。

(高校改革推進室長)

東桜学館中学校の入学者を安定的に確保できているかについては、若干倍率は低下傾向にあるものの2倍を超えているので、安定的に確保できていると言える。高校段階での流出については、99名中97名が進学する状況になっている。鶴岡中央高校は、総合学科と普通科が半分で、高校の倍率が1倍を割るときもあることと、地理的に鶴岡市内に複数の高校があり、選択しやすい状況にある。そのため、高校段階で違う高校に行くことが容易であることが予想される。東桜学館の場合は、近隣にそういった高校がない状況である。

(酒田市副市長)

庄内地区とは、状況が異なるのだと考えたところである。

(遊佐町副町長)

庄内のどのエリアからも通学しやすい場所が望ましいという意見は、北庄内からの通学距離が長いということからきているのであるが、東桜学館には、最上、置賜エリアからも一定数の入学者がいるのか。

(高校改革推進室長)

東桜学館の場合、最上地区からの一定数入学者がいる。置賜地区は入学者はいるが、数は少ない。庄内からもいるが、一家転住などにより、庄内から通学はしていない。

### (3) 意見交換

(鶴岡市副市長)

前回の懇談会の論点を丁寧に整理してあり、県教育委員会の見解についても良くまとまっていると思う。前回の内容では、県教育委員会の設置案に賛同する意見が多くあったと見ており、懇談会の開催によって理解が深まっている。地域から期待感も高まってきていると理解している。3月13日の定例教育委員会において、庄内地区への中高一

貫教育校の設置について協議が行われ、教育委員も現在の計画案のとおり、速やかに実施すべきとの意見が多数であったということであった。本市としては、今後の進め方について、県教育委員会の適切な判断をいただいたと受け止めている。また、地域のニーズに応じて、中高一貫教育校を選択できる環境を整備することは、将来を担う人材育成、地域の発展につながるものと期待しているところである。

(酒田市副市長)

東桜学館の場合は、近隣小中学校への影響は限定的であるだろうが、庄内地区の場合にはかなり条件が異なるものとの印象を受ける。酒田市としては、市長も言っているとおり、鶴岡市と酒田市が対等に発展してきた、切磋琢磨してきたという中で、鶴岡市に特別な学校を作るということは、北庄内に対する影響は大きい。あくまで反対であるが、県が決めることであり、どうしてもやるということであれば、北庄内、酒田市に対する配慮をいただきたい。探究科を酒田東高校に設置したとのことであったが、探究科は他の高校にもある。酒田光陵の工業科を減らさないで欲しかったわけだが、学級減になり、バランスを考えたときに、鶴岡市に特別な学校を作るとなれば、庄内地区におけるこれまでの物事の進め方、市民感情もあるので、酒田市にも何らかの特別な、地域の希望に合った配慮を願いたい。中高一貫教育の提言は20年ほど前のもので、今の教育のトレンドは、それぞれの学校でリーダー育成、探究型学習、アクティブ・ラーニングをすることであると認識している。こういったことを、小中学校においても推進していくが、高校においても進めていただきたい。中高一貫教育校は選択肢の一つであるので、目的に向かってその他のやるべきことも進めていっていただきたい。

(三川町副町長)

中高一貫教育校の設置は意義あるものと、どの自治体からもあったことも踏まえて、具現化するためには、田川地区の県立高校再編整備計画の中で進めることが現実的であることから、県教育委員会の案に賛成である。

(庄内町副町長)

前回の論点を整理した上での県教育委員会の見解については、理解をして賛同したい。これまでも設置の意義については、皆さん認めているわけであり、一部懸念はあるものの、これまでの検討内容などを踏まえて、一定の方向性を確定していくべきである。このようなことから、庄内町としては、積極的に進めて欲しいと考える。

(遊佐町副町長)

田川地区の高校再編の枠を超えて、庄内一本での小中高等学校での教育や、地域作りの視点などの部分で議論が進んでいるのであればそれにこしたことはない。田川地区の再編整備であるという枠組みがある中で、前回や今回出されたいろいろな課題について、県教育委員会の見解において、説明、方針が示されているが、県教育委員会としても広く一般市民に周知されているわけでない認識されているわけなので、具体的な検討を進める過程で、地域全体の声を聞いていってほしい。田川地区の高校再編という枠組みの中で、田川地区の関係者だけに説明をするのではなく、庄内全域で具体的な学校像に対する説明、中高一貫教育校の必要性も含めて説明していただきたいと思う。

(鶴岡市教育長)

前回も中高一貫教育校の設置が遅れることに対する不安を申し上げたが、先日公表された県立高校再編整備基本計画において、平成34年度に鶴岡南高校山添校が閉校、平成35年度に加茂水産高校、平成36年に鶴岡南高校が学級減になるという案が出された。平成36年度に中高一貫教育校ができれば良いが、そうならなかったときに、鶴岡南高校4学級、鶴岡北高校3学級と、2つの進学校がそれぞれ小規模になって、センター試験の理科などの選択が厳しくなる恐れもある。ぜひ、計画通り進めて欲しい。遅れるのであれば、鶴岡南高校の学級減を先延ばしにして欲しいとも思うが、平成36年度まではあと5年あるので、計画通りに進めていただきたい。

鶴岡市も併設型中高一貫教育校の先進校視察を何校か行っているが、通学距離・時間について、仙台二華や東桜学館において、どうしてもこの学校に入り勉強したいという強い志のある子ども達であれば、60分を超えて、90分ぐらいかけて通学している子どももいたようであった。それが良いか悪いかは別の問題として、強い思いをもって通学している生徒がいるということである。遊佐町や酒田市から通う場合には、乗り継ぎなど、JRへの要望活動ができないか検討してはどうかと思う。

(酒田市教育長)

これまでの発言、要点、論点を整理していただき、感謝したい。県教育委員会から出された見解とは直接関係はないが、私が思っていることは、3月13日の県教育委員会において、県の考え方を議論し、ここまで来ている動きは、大切な動きだと思う。なぜかという、本市の場合は、高校を考えている部署と義務教育を管轄する部署とで一定の役割分担をしており、市長が判断する際は、教育委員会の意見は大切だと受け止められているのだけれども、一参考意見として扱われる。その他の参考として、酒田市の場合でいうと、議会の意見、県からも説明していただいた懇談会、つまり市民の意見も聞いている。それをもとに、市長が総合的に判断して、一つの見解を述べている。非常に政治的な部分も持っている。議会、市民などの意見をもとに、意思表示をしているのであり、いろんな人から関心をもってもらい、理解してもらおうというプロセスにおいては非常に大切なことである。前回、酒田市教育委員会の意見としてまとめたものを述べた。

「意義については選択肢が増えることには意味がある」「再編問題とは切り離して欲しい」という意見が多かった。今回、県教育委員会の見解において、それに対してきちんと返答していただいた。私は、これをとてもありがたいと思う。ここまで答えていただいたので、教育委員会にしっかり伝えていくことが大事だと考える。今の教育委員会は、教育長がトップであるが、チェック機能を果たす役割もあるとも言われている。私は、県からの回答をいただいたので、たとえば、なぜ再編と本質的には別であるが、一緒に考えないといけないのかということについて、きちんとした説明があるわけであるので、しっかりと教育委員会に伝えたいと思う。そして、私たちがやるべきことは、市長サイドから言えば、市長は今日の内容を初めて聞いているわけであるから、しっかり伝えるということだと思う。市長の判断は、今後また下されるかもしれないが、このように議論の内容を深めていくというところに非常に意義があると思う。県の考え方は今日よくわかったので、これを受け止めてしっかり広く伝えるようにしていきたい。市長の判断はわからないが、今回このような議論を行ったということについて、新聞報道よりも随分詳しいので、市民や義務教育の保護者に、何とか伝える活動をする使命を私はもっていると思っている。そこでまた意見が出た場合には、内部でも話をするが、一定程度ま

とまったら、県教育委員会にも伝えていきたい。今回は、県教育委員会にはまず感謝申し上げたいところであり、情報の豊富な道路を作ってやりとりするというのを、やっていかなければならないと思う。難しい問題であるけれども、中高一貫教育校の設置の意義について、市民や教育委員の方からも賛同する意見があった。教育の発展のため、庄内として発展していくためには、どういう在り方が良いのかということについて、しっかりパイプ役になって伝えていく、聞いていくとさせていただきたい。

#### (三川町教育長)

県教育委員会の見解は良くまとまっている。これまでの県教育委員会から出された資料を読んでも、平成9年の中央教育審議会の第二次答申を受けて、中高一貫教育について県が取り組んできた歴史的なものも全て網羅している。東桜学館の成果を見てからといったことがあったが、東桜学館を訪問させてもらい、いろいろと話を聞いてきた。首都圏の多くの中高一貫教育校は、カリキュラムの一貫でいかに大学入試に向かうかに主眼が置かれているが、東桜学館の場合は、6年間を通しての探究型学習、体験学習など、人間教育の素晴らしい取組みが行われている。こういう理想的な中高一貫教育の中で育った子どもたちの飛躍に大いに期待している。

庄内の中高一貫教育校に関しては、今までいろいろな議論がなされ、あとはこのまま平行線を辿るだけだろうと思う。意見は出尽くしたと思う。私は県の案に沿った形で早く進めてほしいと思う。

我々教育関係者は、東京都品川区のように小中一貫教育にももっと目を向け、高校につながる教育も考えなければならないと思う。今回を機に、特色ある初等中等教育をどのように展開していくべきか、中高一貫教育と平行して、小中一貫教育の在り方もさらに考えていくべきではないかと思う。

#### (庄内町教育長)

県教育委員会の見解は、非常に論点が整理されておりわかりやすいので、持ち帰り、教育委員や町民の皆さんに見ていただこうと思う。私から3点話をさせていただきたい。

1点目として、先日、教育委員で中高一貫教育校の設置について話をしたところ、選択肢が増えることに概ね賛成ということであった。庄内町は庄内地区の真ん中にあるので、高校進学については飽海地区、田川地区ともにちょうど半分である。加えて、庄内総合高校に定時、通信が併設されるということで、選択肢が増える恩恵を受けているのは、庄内町が一番だろうと思う。他の自治体は、こういった状況とは違うだろうが、ぜひ、この案で進めて欲しいと思う。

2点目としては、勉強する子どもにとって一番良い方法は何かということである。現在の小学校1年生あたりがこれに該当してくるのだろうが、その保護者が不安になっている。自分の子どもが中学生になるときにどうなるのかわからないわけである。現場の教員も疑心暗鬼になっている。その不安をどうやって払拭していくかがとても大事である。

そういう意味で3点目としては、中高一貫教育校の設置の判断を遅らせることのデメリットはあるのではないかと思う。長引けば長引くほど、不安は増幅する。あらぬ噂が出てきたり、誤解が生まれやすくなる。何年度にこうすると決めないとなかなか納得できないところである。こういう計画でやりますと決定したら、中身をこうするというのをじっくり保護者や教員に説明していく必要があると思う。

(遊佐町教育長)

遊佐町は、鶴岡市から一番遠いので、保護者がそこまで意識がないというのが基本的なスタンスだと思う。県教育委員会からは、いよいよ方針が定まって動くことになれば、準備の段階において、ぜひ遊佐町でも手厚く説明をしていただきたい。

鶴岡市に中高一貫教育校ができたからこれで終わりではなく、小中一貫という話もあったが、全ての高校も含めて、どの学校もみんな良くなっていくのだという思いで、若い保護者の期待に応えていただきたい。

少子化が進む中で、新校開校には課題もあるわけだが、酒田市にも中高一貫教育校を作ってはどうか。全ての学校が良い学校だと言ってもらえるように、みんなで作っていききたい。